



発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四糸ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人:二ノ湯 智

国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字: 栢木寛照

えとす

令和3年 3 月号
No.329

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

次から次へ不祥事が発覚 強く求められる公務員の倫理



高円宮久子妃殿下ご臨席の京都コンgresで挨拶する菅首相、京都国際会館で(出典:首相官邸ホームページ)

連日頭の痛い菅首相

昨年9月、第26代自民党総裁に就任し、第99代内閣総理大臣に選出された菅首相。たたき上げの政治家として、国民の共感を呼び、滑り出しは極めて順調であった。内閣支持率は70%以上あり、この状態で総選挙に打って出るのではないかと思われた。そこに思わぬ落とし穴が待ち構えていた。緊急事態宣言下にも関わらず、与党議員による銀座のクラブでの飲食が週刊誌に取り上げられた。追い打ちを掛けて、菅首相の長男が勤務する通信会社「東北新社」と総務省幹部職員の間で頻繁に飲食を行っていたことが判明した。衆参の予算委員会では、連日、この問題に対する質問が繰り返された。菅首相としても、身内が絡んだ問題だけに頭の痛いことである。公務員の倫理は重要なテーマではあるが、国政の最重要課題ではない。昨今、中国の増大に伴い、日本を取り巻く安全保障環境はきわめて深刻になっている。コロナ禍によって傷ついた経済の立て直しを急がなければならない。国会は国権の最高機関である。日本の将来を展望した骨太な論争も期待したいものである。

恒心

★衛星放送事業会社「東北新社」による総務省役人の接待問題で、11名の幹部職員が処分を受けた。接待も1回だけなら、言い訳も立つだろうが、頻繁に接待を受けていたとしたら、弁解の余地がなく、明らかに公務員倫理規程に違反している。★処分者の中には、次期的人事異動で、事務次官の本命と噂されていた人も含まれている。役人として最高のポスト目前で、懲戒処分を受け、辞職してしまった。まさに天国から地獄への転落である。★言うまでもなく、公務員は全体の奉仕者であり、決して特定の個人、会社、団体の利益に便宜を図ってはならないのは当然のことである。接待した会社も、接待された役人も、その場で、特別な要望も陳情もなかったと言っているが、再三にわたった接待である以上、疑念を持たれても仕方がない。★民間による官僚の接待は、以前は誰も不思議に思わなかった。23年前、当時の大蔵省役人への過度な接待事件を契機に、平成12年「国家公務員倫理規程」が制定され、役所と利害関係のある民間人との飲食は、厳しく制限された。★昭和29年3月、京都大学の卒業式で、滝川幸辰総長は、実社会に巣立つ卒業生に対して、タダ酒を飲むなど訓示した。社会には色々と誘惑が多い。飲食をふるまわれる機会が多いが、その裏には必ず、相手側の思惑がある。★無理難題を要求され、間違えれば犯罪に手を染めることになる。前途有為な卒業生がそんな罠にはまらないように自主、自立の精神を持って、人生を歩んでほしいとの戒めの忠告でもあった。今回の接待問題で、67年前の滝川総長の訓示を思い出した。

東日本大震災十周年追悼式
菅首相 自然災害への
防災を強調

平成23年3月11日、午後2時46分に東北地方に発生した大地震は、東京でも新幹線が転覆、あるいは高層ビルが倒壊するのではないかと思うほど強い揺れであった。月日の経つのは早いもので、あれから10年の時間が経過した。しかし、地震、津波で肉親を一瞬にして亡くされた方々の深い傷は10年たっても癒されるものではない。大きな被害を受けたそれぞれの地域の復興もまだ道半ばである。東日本大震災では、2万人近い方が、津波の犠牲となった。明治29年に三陸地方に大地震、そして大津波が襲い、2万数千人が亡くなった。その時の体験、経験は語り継がれていたのだろうか。明治の震災から教訓を学んでいけば、もつと犠牲者を少なくすることができたのではないか。天災は忘れた頃にやってくる。天災を受けた時から、その時の経験、体験を継承し、まさかの時に備える防災こそ大切であることを今さらながら教えられた。3月11日、国立劇場で、天皇皇后陛下下ご臨席の下、ご遺族はじめ関係者が出席し、東日本大震災十周年追悼式が厳粛に執り行われた。菅首相は式辞の中で、東北復興の総仕上げに全力を尽くすとともに震災を教訓として防災に取り組みむことを強調した。最後に、参加者全員、祭壇に花を捧げ、犠牲者の冥福を祈った。



追悼の辞を述べる菅首相
(出典：首相官邸ホームページ)

第88回自由民主党大会
コロナ禍で出席者国会議員のみ

3月21日、第88回自由民主党大会が、グランドホテル新高輪で開催された。コロナ禍のために、例年のように数千人が参加する大規模な大会ではなく、会場に出席できるのは衆参国会議員389名のみであった。各県の代議員(188名)は、リモートで参加した。この日、東京は緊急事態宣言の解除日であったが、今なお、感染に注意を払わなければならない時である。密を避けるためには、このような形式を採るのもやむを得ない。



演説する菅義偉自民党総裁

参議院自民党緊急提言
困窮家庭の子供を救え、
政府早速対応

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が再延長されるなど、コロナ禍が長引く中、若者や女性、生活困窮者を取りまく様々な課題が一層深刻さを増している。参議院自民党では、3月15日、二ノ湯政審会長と「不安に寄り添う政治のあり方勉強会」事務局長上月参議院議員が、坂本哲志内閣府特命担当大臣、田村憲久厚労大臣、加藤勝信官房長官を訪ね、現場の声を十分に踏まえ、施策が迅速、的確かつ強力に実施されるよう要請した。参議院自民党が提言した主な施策は、次の項目である。

- 困窮者への対応の充実・強化
 - ・年度末や年度始めを迎え、真に困窮する子育て世帯(ひとり親、ふたり親を問わず)には現金給付等による支援を速やかに実施すべき
- 支援・相談体制の充実と最前線の支援現場への配慮
 - ・市町村や保健所、福祉事務所、児童相談所等のマンパワー支援や、社会福祉協議会、民生委員等の活動の充実に向けた支援を強化すべき
 - ・相談支援に当たるNPO等の人材育成やネットワーキングなど活動の支援を行うべき
- 学生や教育現場への支援
 - ・新入生や就活生、留学生等の悩みに的

確に対応できるように教育現場等を支援すべき
・教育現場におけるDX対応を推進するため、大学等に対する支援を強化すべき



加藤勝信官房長官



田村憲久厚労大臣



坂本哲志担当大臣

政治分野での女性進出
欧米に比べ非常に低い

我が国においては、政治の分野だけでなく、他の分野でも、指導的立場に立つ女性の数が、欧米諸国と比較して非常に少ないことが、以前から指摘されていた。日本オリンピック組織委員会の森会長の女性蔑視発言をきっかけに、各分野にもっと女性を登用するべきだという意見が、急速に高まってきている。政治の分野でも、地方自治を担う地方議会でも、女性議員の数が、極端に低い。もっと多くの女性が進出することが期待されているが、政治の分野での女性議員を増やすことは、選挙という関門があるだけに、簡単に実現することは難しい。これらのハードルを克服し、女性議員の数を増やすには、本人の強い意思、社会の理解、政党の援助等が必要である。自民党では多くの衆参女性議員が、中心となって、女性議員を増やそうという動きが出てきている。国民の半分は女性である。当然、女性の視点からの意見が、国内のすべての分野において、反映されることはいいことである。ただ、地方議会においては、男女を問わず、議員のなり手不足が深刻で、無投票の選挙区が多くなってきたのが実態である。なり手不足の理由は色々あるが、まずは、やりがいのある議員、魅力ある地方議会にすることが、非常に重要ではないだろうか。

○日本における各級議員の表

◆我が国の国会議員の男女比率

	議員数	男性	女性
衆議院	465	419	46
		90.1%	9.9%
参議院	245	189	56
		77.1%	22.9%

◆我が国の知事・市区長・町村長、都道府県・市区町村議会議員の男女比率

	人数	男性	女性
知事	47	45	2
		95.7%	4.3%
市区長	815	788	27
		96.7%	3.3%
町村長	925	917	8
		99.1%	0.9%

	議員数	男性	女性
都道府県議会	2,668	2,365	303
		88.6%	11.4%
市区議会	18,873	15,740	3,133
		83.4%	16.6%
町村議会	10,889	9,685	1,204
		88.9%	11.1%

多くの意見が寄せられる
際立つコロナ関連の提言

自由民主党政務調査会では、今回のコロナ感染症拡大を契機として、我が党が将来に向けて、どのような政策を打ち立て、国民生活の向上と、その基盤となる経済社会の立て直しを図るべきかについて、全国会議員が、地元を足運び、企業、団体、個人と面談し

て、悩み、苦しみ、要望等を聞くように指示を出した。二ノ湯議員も経済団体を訪問し、現下の問題点を聞いて回った。機関紙「えとす」にも、アンケート用紙を同封、多くの方々から、83件に及ぶ意見が寄せられた。意見の大多数が、コロナに関するものであるが、今の時期、当然のことである。それらを取りまとめ、党本部に提出したが、少しでも政府の政策として、取り上げられることを期待したい。

項目	代表的意見
① コロナ関連	<ul style="list-style-type: none">PCR検査を徹底的に実施すれば、緊急事態宣言、活動制限する必要が少なくて済む国産のワクチンで対応してほしいワクチン接種について医療機関から事前予告の通知がほしいGoToキャンペーンでは全国民に平等ではないので消費税減税で対応してほしい国が都道府県に資金を渡しGoToトラベルを再開するべき国による京都府・市町村への財政援助の拡充コロナ補助金で生じた国の借金を子供たちが将来負担することについて飲食店への補助金について見直しが必要 ・事業規模に応じた支給金額に中小企業・小規模事業者の事業継続 ・雇用持続への支援幅広い事業者が使える支援制度を構築 ・補助金対象にならない業種への支援を検討若い世代の子育て支援、パートタイム支援を検討コロナ対策で持続化給付金がとても助かった ・診療記録の保存
② 外交・安全保障	<ul style="list-style-type: none">安全保障について議論してほしい ・対中国政策の弱さ ・北方四島、竹島、尖閣問題省庁の資料を鵜呑みにせず、ジャーナリストの話の聞き国防問題の解決策を考えるべき
③ インフラ・災害	<ul style="list-style-type: none">綾部～小浜線の早期開通 ・京阪奈新幹線祝園ルート延伸について ・洪水対策山陰線の完全な複線化(綾部～園部間) ・森林の整備・振興
④ 国会・国会議員	<ul style="list-style-type: none">国会審議を女性問題や飲食、接待などより、もっと大事な内容に時間を使うべき一般庶民の感覚をもった若く清新な自民党議員を注入すべき国会議員が不祥事を起こしても辞職せず高額給料をもらい続けることへの疑問、即辞職すべき75歳以上の議員は潔く後進に席を譲らなければ若手議員や女性議員が増えない政治家という職業で生活されているのであればもっと自覚し勉強してほしい政治家は自身の品格、品性、倫理の習得のために研修すべし
⑤ 教育問題	<ul style="list-style-type: none">心の教育、人を思いやり支え合う精神が大切 ・大学の在り方の見直し有名私大の地方分散
⑥ その他	<ul style="list-style-type: none">産業等の全てにおいて中国に依存せず国内で賄える体制を整える下請け企業が安心して給料を払えるような制度を親企業に創設して欲しい中国人の日本国領土買収について ・大手企業本社の地方移転 ・官公庁の地方分散自助・共助・公助の精神をもっと国民に自覚させないと日本は破滅していきます自民党も労働組合の取り組みをしてほしい ・サプライチェーンの見直し食料自給率UPを ・地方自治への援助を強化していただきたい ・道州制の導入菅総理を信頼し、リーダーシップを発揮してもらい、指導者として誇りを持ってもらいたいオリパラ開催は延期すべき ・オリパラ開催は中止すべき ・拉致問題の早期解決憲法改正 ・各委員会NHK放映時のパネル資料の明確化自民党に責任政党として国政を担っていただきたい

時代の岐路に想う

著書『最適化社会 日本』が初版を大方売り上げたようです。購入いただきました皆様にご感謝申し上げます。ネットや書店で在庫切れになっているとのメッセージも多く、出版社と第2版の相談をしております。

お陰様で各方面から反響もあり、講演やイベントへの出演が増えています。特に、『ビジネスの未来』の著者、山口周氏や、『人新世の資本論』の著者、斎藤幸平氏など、現在の資本主義のあり方に疑問を持っている有識者との対談イベントが決まっています。時代の大きな岐路にある中で、私自身にとっても非常に刺激的な機会を、著書を通じて頂けています。

「経世済民(民をたすけて世をおさめる)」という本来のあり方から離れた現在の新自由主義(我よし、強いもの勝ち、ジャングルの論理)が、これからも人類を幸せにするのか、疑問に感じる人が増えています。1%の富裕層が99%の富を独占しているアメリカほどではありません

んが、わが国でも所得の格差は拡大しています。詳しくは著書にゆずりますが、こうした哲学的な問いに、政治家をはじめとするリーダーたちが向き合っていないことが人類の悲劇でしょうか。

強い者、富める者が、弱い者、困窮する者に対して優しいまなざし(シンパシー)を忘れた社会。強い者、富める者が、その立場にあるからこそ保持しなければならぬ矜持(きょうじ)を忘れてしまう(モラルのない)社会。期せずして起こったコロナ禍を通じて、平時には見えなかったリーダーの本当のあり方が露呈した中で、きっかけと受け皿さえあれば国民のマグマが爆発することになるでしょう。そうなれば、自民党はもちろん既成政党の存在意義は失われ、予想もしなかった風が吹くこともあり得ます。

資本主義のあり方のみならず、衰退し続ける地方の問題、集中豪雨や強大化する台風など気候変動の問題など、現在の文明のあり方を大きく見直していくための活動を今後もグレードアップさせていくつもりです。

桜美林大学客員教授

二之湯 武史

伊勢神宮参拝
5月中旬頃に実施予定

恒例の伊勢神宮初詣が、コロナ感染症のために順延となりました。参加を希望されておりました方々から、ぜひ実行してほしいとの要望が、事務所に寄せられています。そこで、緊急事態宣言も解除されましたので、5月中旬頃の、土曜、又は日曜に計画致したいと考えております。次回の「えとす」4月号には、詳細スケジュールをお知らせ致します。

初詣実行委員会

身辺雑記

一、ミャンマーで軍事クーデターが起こった。スーチー氏の指導の下、国は着実に民主化が進み、経済は発展しているものと思っていた。民衆の抵抗がどこまで成果を挙げたのか。日本と非常に近い国だけに、決して無関心ではいられない。

一、中国の全国人民代表大会で、香港の民主活動家の弾圧は、中国の利益を守るためには当然であり、民主活動家は反国家主義者だと決めつけた。まさにこじつけの理由である。経済、軍事大国となっても、品格のない国家である。

一、左京区の国際会議場で、国連の「犯罪防止会議・京都コンGRESS」が開かれ

た。私も開会式に招待され、その条件として事前に、PCR検査を受け、陰性であることが証明されなければならない。幸いに検査の結果は陰性であった。

一、ある日、報道関係者から、N.T.Tの接待者リストに、歴代の総務副大臣・政務官の名前が出ているようですが、二ノ湯議員はどうでしたかとの問い合わせがあった。私の担当は、自治関係なので、N.T.Tとは無縁であると言っておいた。

一、春がやってきた。緊急事態宣言が解除されても、今一つ花見気分にはなれない。昨年に引き続き、2度目の花見なしの春の到来である。何時になったら、完全終息ができるのか。行き場のない、欲求不満が募るばかりである。

一、中国がオリンピックに参加する選手に中国製ワクチンを提供すると言い出した。オリンピック精神を遵守せず、香港、ウイグルにおける人権弾圧を繰り返す中国の申し入れを素直に受け入れていいのだろうか。中国の意図はどこにあるのか。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会

年会費 10万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228